

対談会全体をふりかえって



司会：長谷川 円さん・蓮生 明日香さん

自分で道を選び歩んでいる2人にご登壇いただき、それぞれの生きる道を語っていただきました。本当にたまたまですが、2人とも28歳の同じ年で、息の合った語りから、聞いていて背中を押してもらえそうな力強いメッセージをいただきました。

またコーディネーターの加留部さんには企画段階より“どうしたら、参加者一人ひとりが自分のことも振り返ることができるか”，構成についても相談にのっていただき、感想をシェアしたり、タイムラインを書く時間を設けられたりと参加型の場を作ることができました。参加者の方から「こんな生き方もありなんだ」「自分のことを振り返れた！」等の感想をいただき、本当に良かったです。

登壇者、参加者のみなさま、ありがとうございました。

登壇者の方からメッセージをいただきました！

<板谷 めぐみさん> 今の時代、頭で考えることが多いかもしれませんが。そんな時こそ体いっぱい色んなことを感じれば、命が喜んで希望に満ちあふれ毎日が輝いて見えます。その希望を一人ひとりの来てくれたあなたの中に感じました。ありがとうございました。

<日下部 淑世さん> 参加者の方々も、楽しそうにご自身の話を共有されていたのが印象的でした。日常生活の中で話すには重苦しい過去の話も、「人生はサバイバル！」というポジティブな言葉に救われて、未来に繋がると感じてもらえたなら素敵なことだと思います。

<コーディネーター 加留部 貴行さん> 自分のこれまでを振り返り、他者の人生の歩みをのぞき見して、あなたは何を感じたでしょうか。これまでのことは変えられませんが、あなたの未来は他者から断定できるものではありません。じわっと歩いていきましょう。

「心に残ったフレーズ」参加者からメッセージが届きました！

「考えるより感じる／行動しろ」というフレーズが2人から出てきました。もやもや考えるよりも、とりあえずやってみよう！感じたことを行動に起こしてみよう！という言葉は、私の後ろ向きだった気持ちを前に押し出してくれた気がします。私はどちらかといえば、考えて考えてやっと1歩出たかと思えば、半歩下がってまた考えるような性格です。そんな自分の性格を変えたいと思っていた矢先のこの言葉にハッと気づかされる気持ちでした。まずは行動！感じたままに行動！いきなりは難しいかもしれないけれど、明日からはそういった心持ちで過ごしてみたい。明日の自分を応援してもらえました。明日の私を後押ししてくれた「心に残ったフレーズ」に出会ってくれたシンポジウムに感謝です。

Break Time

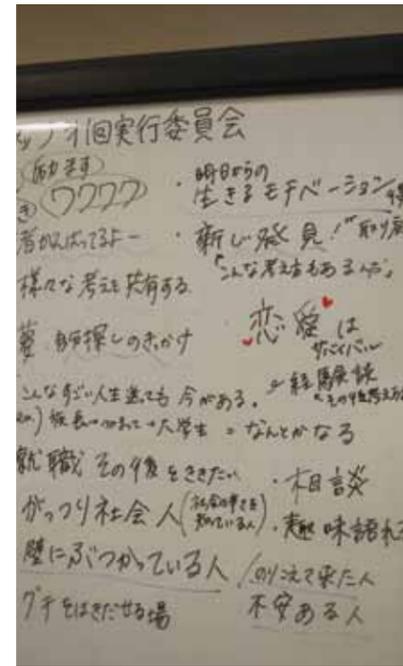


あなたにとってサバイバルとは!?

“いまの社会をどう生き抜いていく？” いろいろな語り合いの中に、迷いや葛藤がありました。もちろん前向きな出会いやヒントも。ここでは準備から当日までに寄せられたサバイバル観をご紹介します。

初回の実行委員会で

どんな話をしたい？聞きたい？そんなことをざっくばらんに出し合いました。サバイバルと言いながらも光や希望を見出したい、新しい発見や切り抜いてきたエピソードという意見。一方「諦めたこと」や「現実を見ると叱られたい」といった意見も出されました。



当日参加者から集まった声は!?

選択の連続・実践・お金・修士論文・恋愛・日々生活そのもの！・明日も生きていること・単位をとる！・切り抜けたあとの達成感・人と人との間で生きること・覚悟・冒険・自分をこえる・友情・今・情緒の上がり下がり・戦うこと・物事に打ち勝つこと！



京都駅前でも聞いてきました！

命・挑戦・受験・就職・愛・人生・happiness・無人島・健康で皆の役に立つような人生を送りたい・決断・取捨選択・夫婦生活・毎日・平和・努力・仕事・焼き肉・環境・日本一周・LOVE・自給自足…



日々、是、サバイバル!!? ~グチコレクションから~

トークフリマの出演団体である『グチコレ』さん。路上で、行き交う人々からグチをきく活動などをされています。ユースシンポジウムには3度目の出展です。今回のユースシンポジウムではどんなことが“グチられた”のでしょうか？

「今の就職活動はおかしい」「履歴書や学歴だけで決めないでほしい」(20代男性)、「何をやるにしても本番前はとて緊張してしまう」(10代女性)、「友達が話を聞いてくれると言ったから、話したら自分の話を否定された」(20代女性)、「サークル活動が忙しすぎて、時間がない」(20代男性)、「叶えたい夢があったが、いろんな理由があって諦めなくて

はならなくなった」(10代女性) ふむふむ、日常的なグチから社会への不満、自分自身のことなど様々ですね。京都駅や当日寄せられた“サバイバルとは？”には、スケールの大きいものもありますが、日々吐き出したい“グチ”にも日常を生き抜くために意識された“サバイバル観”があるのかもしれませんが。ある参加者の方が、グチコレさんのメンバーに「グチの概念が変わって前向きになれました。」というお手紙を渡されたとのこと。グチをグチとして吐き出せる場があること、聴いてくれる人がいること、これは一つのサバイバル術？かもしれません。